

開講科目名 / Course	在宅看護学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year	1 学期 / First
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	4	
主担当教員 / Main Instructor	福田 広美	
担当教員名 / Instructor	福田 広美、荒木 章裕、矢野 亜紀子、大矢 七瀬	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	30	
科目の目的と概要	在宅看護学実習では、訪問看護ステーションおよび在宅看護におけるさまざまな生活の場での実習を通して、疾病や障がいをもちながら生活する療養者とその家族に、継続的かつ予防を含めた看護を提供する。また、法令・制度について理解を深めながら、その中での看護の機能・役割について探求することをねらいとする。 在宅看護学実習の目的は以下の3つである。 1) 療養者とその家族を中心とした看護の実際を学び、療養者の個別性に合わせたケアを継続的に提供するための看護者としてのスキルを身に着ける。 2) 訪問看護の意義・役割・運営基盤を、多職種連携を含む実際の活動等を通して理解する。 3) 在宅看護に携わる看護職者としての態度を養う。	
到達目標	1. 療養者の病態および治療とその影響についてアセスメントできる。 2. 療養者のセルフケア能力と家族の介護力、療養環境に応じた看護計画が立案できる。 3. 病院と異なる療養環境の特性を説明できる。 4. 在宅ケアチームの一員としてケアに参加できる。 5. 在宅看護に関する制度や療養者を支える社会資源について説明できる。 6. 療養者とその家族をとりまく社会資源の実際と、連携・協働における看護の役割を説明できる。 7. 訪問看護ステーションの運営基盤（人材、物品、経営、関連法規等）を説明できる。 8. 多職種や地域で生活する人々との関わりを通して、看護職としての自分の考えを述べることができる。 9. 在宅で療養する人々の多様な価値観（健康観・人生観）の理解と尊重を通して、看護職としての行動をとることができる。	
DPとの対応	1. 心豊かな人間性・倫理観、 3. 看護の基盤となる専門知識・技能、 4. 連携協働・リーダーシップ、 5. 地域性・国際性	
授業計画	実習期間 2025年5月12日（月）～6月6日（金）4週間のうちの1週間 実習施設 大分県内の訪問看護ステーション 実習方法 原則1名の利用者を受け持ち、在宅療養の場における看護を行う。 様々な在宅看護の場で実践および見学を行う。 平成27度カリキュラムに該当する学生については別途指示する。	
その他の授業の工夫	訪問看護ステーションの利用者を受け持ち、療養者とその家族への看護を通して、在宅看護への理解を深める。また、訪問看護ステーションが連携する多様な施設や職種についても実際の場を経験しながら学ぶ。	
時間外学修	事前学修：在宅看護学概論または在宅看護援助論の講義内容およびテキストを用いて事前レポートを作成する（2h）。 事後学修：各種実習記録の作成を行う（6h）。	
評価方法と評価割合	出席日数は100%出席することを原則とし、平常点（30%：看護学実習において必要な態度）、実習内容（70%：実習目標に対する達成度評価、記録を含む）により評価を行う。	
テキスト		
参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1,2]（医学書院） 強みと弱みからみた在宅看護過程（医学書院） ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開（ふくろう出版）	
履修する上で必要な要件	第3段階実習および当該実習を担当する科目群の全ての専門科目、在宅看護学概論および在宅看護援助論の単位を修得済であること。	
その他	感染症等の状況に応じて、実習の内容を変更する場合がある。実習期間中に止むを得ず参加できない場合は、至急担当教員に連絡し、指示に従う。無断欠席をした場合は、それ以降の実習に参加できないことがある。	
教員の実務経験	有・無	有

	内容	福田広美：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 荒木章裕：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 矢野亜紀子：病院での勤務および訪問看護ステーションでの実務研修の経験 大矢七瀬：病院での助産師としての勤務の経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	訪問看護ステーションに勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	看護の実務経験を活かして在宅看護学の知識や技術について教育する。	